

自主学習会

日本の原始・古代を考える

佐倉市 瀬田 貴久子

当学習会は、平成25年発足から4年、33名の大所帯です。みなさん古代大好き、心意気旺盛で白熱する質疑応答もしばしば。この学習会は、遙か昔に心を馳せて自分はどこから来て、どこへ還るかを無意識の内に模索し、その中から長い人類史の上に小さな自分を見つけないかと思っています。

学習会のみんなの熱い眼差しと輝きは、暗黙の裡にこれを意図し、各個が自分の存在理由を賭けているからかもしれない。歴史上の事柄の正過も大事だが、歴史の流れに身をゆだねる思いで私は参加しています。

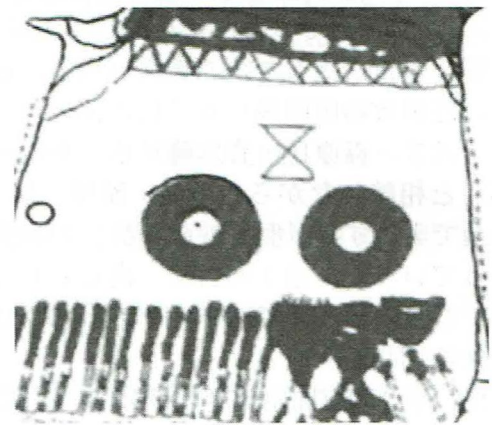
学習会の中心は発表で自己申告が基本。平成28年は「日本の古代佛教をたどって」「稲荷山古墳鉄剣銘文」「渡来人の古代史」「七夕伝承」「古代出雲王国」「天孫降臨－記紀による違い」「北辺の縄文文化－アイヌの源郷」「七支刀銘文」「稲作の起源とその旅」「古気候の再現」「縄文の時代観と世相・研究史」「さきたま古墳群」など多岐に亘る課題に興奮。

加えて藤尾慎一郎著『弥生時代の歴史』を資料に序章から追って発表します。つまり学習会毎に2名の発表があるのです。



加えて館外見学会が3回ありました。

- 1－市原市埋蔵文化財調査センター・金鈴塚古墳・金の鈴博物館（学芸員の説明に魅了され、臨場感にみたまされました）金鈴塚の金の鈴が揺れて雅な音が響く。
- 2－井野長割遺跡・吉見台遺跡
- 3－虎塚古墳・ひたちなか市埋蔵文化財調査センター（学芸員の説明から高松塚古墳と虎塚古墳の関係が理解できました）虎塚古墳の彩色壁画に感嘆、しばし無言。



虎塚古墳壁画の一部

(ひたちなか市教育委員会所蔵)

このつながりで水戸光圀の学術発掘と文化財保護に先駆的役割を果たした事を知りました。館外学習会は大空の下、和気あいあい楽しい時間です。本年も期待大です。

学習会は第2木・本年4月から午後1～4時と時間延長で3名の発表を組む予定。

本年の資料は『日本の歴史04 平城京と木簡の世紀』渡辺晃宏著（講談社）です。

学習会全員の努力と熱意で、経年ごとに内容の充実を実感します。今年も実りある時間になるでしょう。

古代大好きな方、楽しく、温かく、熱籠る話題の中にぜひお入りください。学習会全員で、心からお待ちしております。